

北海道水産・海洋系高校における乗船教育について

山本 十三(渡島教育局実習船管理室)

1. はじめに

現在、北海道には北海道小樽水産高校、函館水産高校、厚岸翔洋高校の3つの水産・海洋系高校がある。北海道小樽水産高校には本科4科、専攻科漁業科、専攻科情報通信科が設置されており、函館水産高校には本科4科、専攻科機関科が設置され海技士養成機関となっている。

また、北海道教育庁渡島教育局実習船管理室では大型実習船「若竹丸」(666t、H9～)、「北鳳丸」(664t、H13～)、2隻の運航・管理を行っている。

今回は北海道の水産・海洋系高校の現状と乗船教育について紹介する。

2. 北海道水産・海洋系高校について

北海道には戦後、水産系高校が13校設置されていたが、現在は水産科単置校であった小樽水産高校、函館水産高校、厚岸翔洋高校の3校となっている。

小樽水産高校は本科4科(海洋漁業科、水産食品科、栽培漁業科、情報通信科)4間口、専攻科2科(専攻科漁業科、専攻科情報通信科)2間口が設置されており、函館水産高校には本科4科(海洋技術科、機関工学科、水産食品科、品質管理流通科)4間口、専攻科1科(専攻科機関科)1間口が設置されている。

厚岸翔洋高校は厚岸水産高校と厚岸潮見高校(普通科)が統合された2間口の併置校であり、海洋資源科は生産技術コース、調理師コースのコース制をとっている。

3. 実習船について

昭和48年以前には、上記北海道水産高校3校以外にも実習船がそれぞれ配置されていた(小樽水産「若竹丸」

「拓洋丸」、函館水産「北鳳丸」、厚岸水産「若潮丸」)。

水産系高校であった南茅部高校には「栄光丸」、浦河高校に「あぼい丸」、網走向陽高校に「向陽丸」が配置されていた。

昭和48年、北海道教育庁実習船管理局が開設されたことにより、各校に所属していた実習船は管理局で運航・管理されることとなった。また、実習船管理局は平成24年から北海道教育庁渡島教育局に統合され、現在に至っている。

4. 実習船の運航について

北海道水産・海洋系高校では本科1、2学年次に体験・短期乗船実習を実施しており、さらに乗船学科乗船コースでは長期乗船実習を行っている。長期乗船実習ではマグロ延縄実習、外地寄港地での国際理解教育を実施している。

また、北海道実習船は独立行政法人水産総合研究センターの浮魚類等資源調査の用船としても運航しており、専攻科生徒は資源調査に係る実習とともに訓練記録簿に沿った実習を行っている。

5. 乗船教育について

各乗船実習は学習指導要領に基づいて学習計画がなされ、本科1学年では科目「水産海洋基礎」の科目内実習、2学年では科目「総合実習」として実施している。また、長期乗船実習前には段階的に短期乗船実習を実施している。

さらに、北海道では乗船中、生徒と良い関係を保つという観点から「班別指導体制」を導入し、生徒の生活・健康・学習・作業状況について把握するとともに、船内指導会議を開催して情報の共有化を図るなど密着型の指導体制の確立に努めている。